

平成28年度 丹後広域振興局 運営目標

番号	運営目標	ページ	数値 目標
1	海の京都DMOとの連携により、「大交流」の時代に向けて、観光入込客数660万人、観光客一人当たり消費額6千円を目指し、新たな「海の京都観光圏」を形成し観光誘客を図ります。(28年度目標：観光消費額 10億円増)	1	○
2	競争力のある「ほんまもん京ブランド」品目の農産物出荷額3.8億円を目指すとともに、丹後産コシヒカリの特A評価を再度獲得するなど、丹後の強みを活かした産品を増強します。	2	○
3	地域一体となって丹後の食の魅力の戦略的PRや地域ブランディングを進めます。	2	○
4	TPPの影響を受けない高級牛肉を産出する和牛子牛の生産拡大を推進します。	3	○
5	丹後の特色を活かした新たな商品の開発や食関連ビジネスを創出します。	3	○
6	丹後王国「食のみやこ」における10次産業化を推進します。	4	○
7	新たな就農者や漁業就業者を確保するなど、担い手の確保育成や農林水産業の生産基盤を整備します。	4	○
8	平成30年度に野生鳥獣による農産物被害額をほぼ半減(50百万円)します。(平成25年度基準 90百万円)	5	○
9	「丹後半島一周・京都の新海遊ルート」の完成等に向けた整備を推進します。	5	○
10	エコノミック・ガーデニングの手法を用いて、中小企業の経営革新等に向けた取り組みを支援します。	5	○
11	「丹後・知恵のものづくりパーク」における人材育成と施設の有効活用を推進し、地域のものづくりを多角的に支援します。	6	○
12	「丹後ちりめん創業300年」を見据え、丹後織物・機械金属のブランド力の向上とビジネスモデルを推進します。	6	○
13	U・Iターン等を推進し、丹後地域の産業を担う人材の確保・育成を図ります。	7	○
14	山陰海岸ジオパークの世界ジオパーク再認定を目指すとともに、地域住民を主体とした取組を通じて、学術・観光資源として活用し、丹後の魅力発信につなげます。	7	○
15	天橋立の世界文化遺産をめざした取組と阿蘇海等の閉鎖性水域の環境改善を推進します。	7	○
16	丹後地域の森林を守り育てる取組を推進します。	8	○
17	丹後の優れた自然環境や生活環境を守り、安心して生活できる地域づくりを進めます。	8	○

番号	運営目標	ページ	数値目標
18	交流人口の拡大を図るために地域活性化につながる「スポーツ観光」を積極的に支援します。	8	○
19	地域の防災力を高めるため、人材の養成や避難訓練等を通じて、災害に強い丹後づくりに取り組みます。	8	○
20	河川整備や土砂災害対策等安心安全のまちづくりを推進します。	9	○
21	府立医科大学附属北部医療センターを「北京都安心医療拠点」とした丹後地域の病院や診療所との機能分化、連携体制の強化を進めます。	10	○
22	「たんご健康長寿日本一」を推進します。	10	○
23	高齢者が安心して地域で生活できる地域包括ケア体制の充実・強化を図ります。	11	○
24	地域ぐるみの少子化対策を推進し、安心して子育てができる地域づくりを進めます。	11	○
25	障害者の自立と社会参加を支援します。	12	○
26	自殺のサインを見逃さない、自殺のないまちづくりを推進します。	12	○
27	家畜伝染病防疫対策を徹底するとともに、感染症の予防・拡大防止に努めます。	12	○
28	安心・安全な消費生活の実現を図ります。	13	○
29	Xバンドレーダーの配備に関して、地域住民の安心・安全の確保に向けて関係機関と連携して課題の解決に取り組みます。	13	×
30	安心安全で快適な海水浴場を目指して、遊泳者及びプレジャーボートの事故防止等の環境づくりを推進します。	13	×
31	地域活動団体をはじめとする住民との協働体制のもとで、新たな丹後地域を創造します。	13	○
32	若者の丹後地域への愛着心を醸成する「TOMORROW丹後プロジェクト」の推進により、丹後が誇る文化を次代へつなぎます。	14	○
33	命の里の再生とふるさと保全・農村再生活動を推進します。	14	○
34	市町や関係機関と連携した地域住民の活動支援等により、より利用しやすい公共交通ネットワークの実現をめざすと同時に丹鉄年間利用者数200万人を目指します。	14	○

運営目標数	34
うち数値目標	32